

### ■開催概要

- シリーズ名称 : 2022 鈴鹿クラブマンレース Final Round
- 主催 : オートスポーツクラブアツタ (AASC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)  
[Formula Regional Japanese Championship 2022] 運営:  
フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ事務局
- 協力 : OCCK、ARCN、ARC、チーム淀、KRHC
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2022-2005
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数/107台  
FFチャレンジ……27台  
CS2……19台  
フォーミュラEnjoy……22台  
クラブマンスポーツ……25台  
FIT 1.5 Challenge Cup……14台
- 併催クラス : Formula Regional Japanese Championship 2022 Round 6 (Race 16/ Race 17) ……9台  
BMW & MINI Racing 2022 Round 5 (Race 9/ Race 10) ……17台
- 開催日 : 2022年12月10日(土)・11日(日)
- 天候/路面 : 12月10日(土) 晴れ/ドライ、11日(日) 晴れ/ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/2022/clubman/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2022/clubman/)

※2022年度の鈴鹿クラブマンレースは今大会でシリーズ終了となります。

来年度の開催につきましては、鈴鹿クラブマンレース参加者向けページに掲載の暫定カレンダーをご参照ください。



12月10日(土)は各カテゴリーの予選の後、「FFチャレンジ」の最終戦が開催された。同カテゴリーの予選ではHIROBON(写真)がコースレコードを更新してポールポジションを獲得

## 最終戦にふさわしい熱いバトルが展開され、 全てのカテゴリーでチャンピオンが決定!

9月3日(土)・4日(日)に行われたRound 6から約3か月のインターバルを経て、12月10日(土)・11日(日)に鈴鹿クラブマンレースの2022年シーズン最終戦が開催されました。

今回行われたのは「FFチャレンジ」「CS2」「フォーミュラEnjoy」「クラブマンスポーツ」「FIT 1.5 Challenge Cup」の5カテゴリー。また、アジアやアメリカ、ヨーロッパでもシリーズ戦が戦われている「Formula Regional」の日本大会やBMW M2とMINIによるレースシリーズ「BMW & MINI Racing」も行われました。

特に注目を集めたのはランキングリーダーの林陽介に5ポイントという僅差でランキング2位の松下裕一が続いた「FFチャレンジ」。このカテゴリーの予選では今シーズンの全戦でポールポジションを獲得してきた松下がアタックのタイミングが合わず、8番グリッドからの追い上げを余儀なくされる展開に。決勝では独走状態となったHIROBONの後方で林(陽)、木村翔、林大輔、毛利有佑、開勇紀が見応えのあるバトルを披露しましたが、クラッシュしたマシンが複数台あったことにより、セーフティカーがコースイン。リスタート後も林(陽)、木村らがバトルを続けましたが、2位でチェッカーを受けた林(陽)がチャンピオンを獲得しました。また、その他のカテゴリーでも接戦が展開され、大いに盛り上がりました。

今シーズンは「CS2」が従来からのマシンによる「Cクラス」と新規マシンによる「Gクラス」の2クラス混走となり、さらに盛り上がりを見せました。また、様々なワンメイクレースが併催されたり、海外から多くのチームやドライバーが参戦した「SUZUKA Race Of Asia 2022」の併催レースとしてRound 5が開催されたこともトピックでした。Round 2以外がフルコースを舞台に行われてきた全7戦による2022年シーズンの鈴鹿クラブマンレースも今回で無事全てが終了しました。



BMW M2 CS Racing, MINI JCW CHALLENGE CAR, MINI CPS CHALLENGE CARの3車種混走による「BMW & MINI Racing」や「Formula Regional Japanese Championship」が併催された



## ■ FFチャレンジ Class

ポールポジションのスタートのHIROBONが良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。それに林陽介、木村翔とグリッドのオーダー通りに続く。HIROBONはオープニングラップから早くも後続を引き離しにかかる。そのHIROBON、林(陽)、木村、林大輔、毛利有佑、開勇紀のオーダーでオープニングラップを終了。木村は積極的に林(陽)のテールを狙うが、パスするには至らない。その間にHIROBONはさらなる逃げ切り体制を築く。2周目のシケイン進入で複数台がクラッシュしたことより、セーフティカーがコースイン。リスタート後もHIROBONの後方で林(陽)と木村がテールtoノーズのバトルを展開したが、順位が変わることはなく、HIROBON、林(陽)、木村のオーダーでチェッカーを受けた。



これまで3戦全てでポールポジションを獲得している松下裕一が今回の予選では8番手。コースレコードを更新する2分26秒249をマークしたHIROBONがポールを獲得



ウィナーは久しぶりにこのカテゴリーに参戦したHIROBON(写真中央)。2位の座を守った林(陽)(同左)がチャンピオンに。3位は木村だった



## ■クラブマンスポーツ Class

2番グリッドスタートの中里紀夫が良いクラッチミートを披露するが、ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの大八木龍一郎。S字コーナーでコースアウトしたマシンがあったため、セーフティカーがコースに入る。リスタート後も大八木と中里がテールtoノーズのバトルを展開。3番グリッドスタートの青合正博以降が若干離れる。3周目の西ストレートで大八木のスリップに入った中里が130R進入でトップに浮上。中里と大八木はバトルを続けるが、4周目には中里が大八木を引き離しにかかる。大八木の後方では青合、八木智、TOMISANの3台がバトルを展開。ファイナルラップのシケインで大八木が中里と並ぶとその2台が接触して中里がコースアウト、大八木がトップチェッカーを受けた。



ポールポジションを獲得したのはランキング2位の大八木。ランキングリーダーの中里がその隣に並ぶ。レースはチャンピオンの可能性があるその2名による一騎打ちに



大八木(写真中央)がトップチェッカーを受けると同時に2年連続のチャンピオンを決めた。2位は青合(同左)。TOMISANが3位でレースを終えた



## ■CS2 Class

ポールポジションスタートの奥本隼士が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う。奥本はオープニングラップ終了時点で3番グリッドスタートの成瀬以降に2秒893のアドバンテージを築くことに成功。その後方で成瀬と2番グリッドスタートの米谷浩がテールtoノーズのバトルを展開する。奥本は2周目終了時点では5秒335、3周目終了時点では7秒751と、周回ごとに後続とのタイムギャップを広げ続ける。次第に成瀬と米谷も単独2番手、単独3番手に。集団がばらけ始めた頃、130Rのイン側グリーンにストップしたマシンがあったことにより、セーフティカーがコースイン。リスタート後も奥本が後続を引き離してトップチェッカーを受けた。2位は成瀬。米谷が3位でレースを終えた。



11日(日)の早朝8時にスタート進行が始まったこのカテゴリー。モータースポーツ歴2年の奥本が2番手にコマ560のタイム差を付けてポールポジションを獲得



新規マシンの「v.Granz」による「Gクラス」では奥本(写真中央)がポールtoウィン。総合6位となつたいむらせいじがチャンピオンを決めた

■CS2 Class



従来からの「WEST16C」による「Cクラス」のウィナーは入谷敦司(写真中央)。クラス2位は寺島大(同左)。依田学嗣がクラス3位でレースを終えた



## ■フォーミュラEnjoy Class

ポールポジションスタートの山崎一平が良いスタートを切る。2番グリッドスタートのT.山口が出遅れるが、2番手を守って1コーナーへ。オープニングラップのS字コーナーやデグナーカーブでクラッシュしたマシンがあったことにより、セーフティカーがコースに入る。リスタート後は山崎が単独トップになると、T.山口も単独2番手に。しかし、デグナーカーブでクラッシュしたマシンがあったことにより、再びセーフティカーがコースイン。このリスタート後も山崎が後続を引き離す。その後方でT.山口と小嶋禎一がテールtoノーズのバトルを展開。6周目にT.山口が山崎の背後に接近すると、そのバトルに小嶋も加わる。ファイナルラップまで続いた3台によるトップ争いを制したのは山崎だった。



コンマ114という僅差でポールポジションを獲得したのはポイントランキング4番手の山崎。フロントローのもう1台はランキング6番手のT.山口となった



T.山口や小嶋とのバトルを制してトップチェッカーを受けたのは山崎(写真中央)。T.山口(同左)が2位で、小嶋が3位でレースを終えた

## ■フォーミュラEnjoy Class



56歳以上のドライバーが対象となるマイスターズカップのウィナーは小嶋(写真中央)。同じく2位は大川文誠(同左)、同3位はRyu Maoだった



## ■BMW & MINI Racing Round 5 (Race 9 / Race 10)

BMW M2 CS Racingのファンメイクレースである「M2 CS Racing Series」とNEW MINIのファンメイクによる「MINI CHALLENGE JAPAN」の共催レースシリーズが「BMW & MINI Racing」。1ラウンド2レースずつが開催されてきており、今回のRound 5では12月10日(土)に予選が行われ、決勝は翌11日(日)の午前と午後に1戦ずつが開催された。



予選ベストタイム順にグリッドに並んでスタートした「M2 CS Racing Series」のRace 9では水元寛規(写真中央)が優勝。2位は石井一輝(同左)、3位は奥村浩一



「MINI CHALLENGE JAPAN」MINI JCWクラスRace 9のウィナーは大塚隆一郎(写真中央)。木村建登(同左)が2位。平田雅士が3位でレースを終えた

## ■BMW & MINI Racing Round 5 (Race 9 / Race 10)



「MINI CHALLENGE JAPAN」MINI CPSクラスのRace 9の表彰台は1位／森岡史雄(写真中央)、2位／白戸次郎(同左)、3位／碓井久彦の3名

リバースグリッド方式で行われたRace 10では Race 9と同様、「M2 CS Racing Series」は1位／水元、2位／石井、3位／奥村、  
「MINI CHALLENGE JAPAN」MINI JCWクラスは1位／大塚、2位／木村、3位／平田のオーダーだった。

また、「MINI CHALLENGE JAPAN」MINI CPSクラスのRace 10では1位／白戸、2位／碓井、3位／恩塚一将のオーダーでチェッカーを受けた。



## ■Formula Regional Japanese Championship 2022 Round 6 (Race 16／Race 17)

「Formula Regional」はF1を頂点とするフォーミュラカテゴリーのひとつクラスとして2014年にスタート。日本ではJAF地方選手権シリーズとして「Japanese Championship」が2020年に始まった。3年目を迎える今シーズンは全6ラウンド／17レースが行われ、今回は最終ラウンド (Race 16／Race 17) だった。



12月10日(土) 午前に行われたQ1のベストタイム順にグリッドに並んでスタートしたRace 16では小川颯太(写真中央)が総合優勝。総合2位は小山美姫(同左)、総合3位は畑享志だった



Q1と同じく10日(土)に行われたQ2のベストタイム順にグリッドに並んでスタートした11日(日)のRace 17。今シーズンの最終戦となったこのレースでは大木一輝(写真中央)が総合優勝



## ■FIT 1.5 Challenge Cup Class

ポールポジションスタートの伊藤裕士が真っ先に1コーナーへ。2番グリッドスタートの山内剛志と4番グリッドスタートの杉原悠太が横並び状態で伊藤に続く。伊藤、杉原、山内、西尾和早のオーダーでオープニングラップを終了するが、西尾のマシンにトラブルが発生したのか、続く2周目に西尾は10番手近くまで順位を落とす。西尾のマシンは一時的にスピードを取り戻すが、次の周にはさらにドロップダウン。その時点で山内のチャンピオンが濃厚となる。同じく2周目の130Rでその山内が杉原をパスして2番手に浮上。山内はトップを走る伊藤の背後にも接近し、伊藤の動向をうかがう。伊藤、山内のオーダーのままファイナルラップへ。順位が変わることはなく、伊藤がポールtoウィンを飾った。



開幕戦で優勝を飾った伊藤がポールポジションを獲得。ランキング2位で最終戦を迎えた山内がその横に並び、さらにランキングリーダーの西尾は3番グリッドからスタート



2022年シーズン締めくくりのレースとなったこのカテゴリーでトップチェッカーを受けたのは伊藤(写真中央)。2位となった山内(同左)がチャンピオンに輝いた



## Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った  
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答  
「Voice of Pick up Driver&Team」。

FFチャレンジ Classで2位になり、シリーズチャンピオンを獲得

**林 陽介** 選手 ゼロファイター★零式戦闘★制動屋★



『家族が来ていたので勝ってチャンピオンを飾りたかった。来年もこのカテゴリーに参戦して再チャレンジします』とコメント

**Q: 公式予選では2番手タイムでした。赤旗が出されて難しい予選だったと思います。**

「赤旗後はリズムが狂ってたくさんミスをしました。タイムが2番手だったのはラッキーなぐらいです。今年はポールポジションを獲得できないシーズンでした。今回もHIROBON選手が速いことはわかっていましたが、明らかにタイム差があり、経験の差を感じました」

**Q: 予選の赤旗に続き、決勝ではセーフティカーが入りました。決勝も集中力を保つのが難しかった印象です。**

「セーフティカーが入るとやはり集中力をキープするのが難しいですね。水温が上がらないとVTECが効かなくなるため、エンジン回転を高めに保って水温を上げるのも大変でした。なんとか2位のままチェッカーを受けることができて良かったです」

**Q: 5ポイント差のランキングリーダーとして最終戦に臨み、見事チャンピオンを決めましたね。**

「第2戦で勝つことができ、そこからチャンピオンを獲得したいという気持ちが強くなりました。ポイント数で近づかれてヒヤヒヤしましたが、今回のレースも後続につつかれてヒヤヒヤしました。厳しいシーズンでしたが、チャンピオンを獲得できました。来年もこのカテゴリーに参戦予定。2連覇したいです」